

長岡工業高等専門学校		開講年度	平成28年度 (2016年度)		授業科目	保健体育
科目基礎情報						
科目番号	0026		科目区分	一般 / 必履修		
授業形態	実験・実習		単位の種別と単位数	履修単位: 2		
開設学科	一般教育科		対象学年	3		
開設期	通年		週時間数	2		
教科書/教材	現代保健体育改訂版, 大修館書店					
担当教員	阿部 高弘,江田 茂行,桐生 拓					
到達目標						
既習した運動理論や運動技術を基本に生涯健康であるために、総合的に運動と関わるか、運動習慣を身に付けるためにはどうするかを自ら考え、自ら学び、練り上げ、生活にいかせる能力を身に付ける。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。		チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲーム概ねができる。		左記に達していない	
評価項目2	互いに協力してトレーニングや競技ができるようにするとともに、グラウンド、体育館などの安全を確かめ、健康・安全に留意してトレーニングや競技ができる。		②態度：互いに協力してトレーニングや競技ができるようにするとともに、グラウンド、体育館などの安全を確かめ、健康・安全に留意してトレーニングや競技が概ねできる。		左記に達していない	
評価項目3	自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的なトレーニングの仕方や競技の仕方を工夫することができる。		自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的なトレーニングの仕方や競技の仕方を工夫することができる。		左記に達していない	
学科の到達目標項目との関係						
教育方法等						
概要	運動理論や運動技術を基本に生涯健康であるために、総合的に運動と関わるか、運動習慣を身に付けるためにはどうするかを自ら考え、自ら学び、練り上げ、生活にいかせる能力を身に付ける。					
授業の進め方・方法	教室の他、体育館・グラウンド他体育施設にて講義を行う。					
注意点	健康・安全に留意して授業参加できるようにすることが大切であり、原則的に学校指定の体操着を着用、装飾品等を外して授業に参加すること。天候や気温、湿度などの気象条件に応じた服装の用意を忘れないこと。地面や床の固さやスポーツ種目を考え、適切なシューズを履くこと。以上のことが健康・安全にかかわる態度の育成に寄与する。					
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	スポーツテスト（屋外種目）		スポーツテストの屋内種目を行う	
		2週	スポーツテスト（屋内種目）		スポーツテストの屋内種目を行う	
		3週	学校体操の確認 ソフトボール① キャッチング		ソフトボール,キャッチングを理解・実践する	
		4週	ソフトボール②：送球と捕球 オーバーヘッドスロー		送球,捕球またオーバーヘッドスローを理解・実践する	
		5週	ソフトボール③：ピッチング スリングショット		ピッチング特にスリングショットを理解・実践する	
		6週	ソフトボール④：バッティング技能を高める（ティー）		バッティング技能をティーを使用してを理解・実践する	
		7週	ソフトボール⑤：ベースランニング		ベースランニングによってランニングの技能をを理解・実践する	
		8週	ソフトボール⑥：バッティング技能を高める（トス）		バッティング技能(トスバッティング)を理解・実践する	
	2ndQ	9週	ソフトボール⑦：連係プレイ（カット&キャッチ）		ソフトボールにおいての連係プレイ（カット&キャッチ）を理解・実践する	
		10週	ソフトボール⑧：バントゲーム		バントゲームを理解・実践する	
		11週	ソフトボール⑨：タイブレーカーゲーム		タイブレーカーゲームを理解・実践する	
		12週	ソフトボール⑩：リーグ戦①（実技試験：送球と捕球）		リーグ戦のなかでソフトボールの技術を理解・実践する	
		13週	ソフトボール⑪：リーグ戦②（実技試験：ピッチング）		リーグ戦のなかでソフトボールの技術を理解・実践する	
		14週	ソフトボール⑫：リーグ戦③（実技試験：バッティング）		リーグ戦のなかでソフトボールの技術を理解・実践する	
		15週	スポーツテスト個票記入と自己体力分析		スポーツテスト個票記入と自己体力分析を行える	
		16週				
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション		オリエンテーション	
		2週	テニス① 総合練習		総合練習の中でテニスの技能について理解実践する	
		3週	テニス② 総合練習		総合練習の中でテニスの技能について理解実践する	
		4週	テニス③ 総合練習		総合練習の中でテニスの技能について理解実践する	
		5週	テニス④ ゲーム		ゲームの中でテニスの技能について理解実践する	
		6週	テニス⑤ ゲーム		ゲームの中でテニスの技能について理解実践する	
		7週	テニス⑥ ゲーム		ゲームの中でテニスの技能について理解実践する	
		8週	バドミントン① 説明 基礎練習 ステップ		バドミントンの基礎練習、ステップについて理解実践する	
	4thQ	9週	バトミントン② 真上打ち 壁打ち ハイクリアー		真上打ち 壁打ち ハイクリアーについて理解実践する	

		10週	バドミントン③ ドライブ ドライブ&ハイクリアー	ドライブ ドライブ&ハイクリアーについて理解実践する
		11週	バドミントン④ スマッシュ	スマッシュについて理解実践する
		12週	バドミントン⑤ スマッシュ&レシーブ	スマッシュ&レシーブについて理解実践する
		13週	バドミントン⑥ ゲーム（リーグ戦）	ゲームの中でバドミントンの技能について理解実践する
		14週	バドミントン⑦ ゲーム（リーグ戦）	ゲームの中でバドミントンの技能について理解実践する
		15週	自己体力分析 全国・県の体力調査との比較より	自己体力分析できる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	汎用的技能	汎用的技能	相手の意見を聞き、自分の意見を伝えることで、円滑なコミュニケーションを図ることができる。	3	
			相手を理解した上で、説明の方法を工夫しながら、自分の意見や考えをわかりやすく伝え、十分な理解を得ている。	3	
			集団において、集団の意見を聞き、自分の意見も述べ、目的のために合意形成ができる。	3	
			目的達成のために、考えられる提案の中からベターなものを選び合意形成の上で実現していくことができ、さらに、合意形成のための支援ができる。	3	
			ICTやICTツール、文書等を基礎的な情報収集や情報発信に活用できる。	2	
			ICTやICTツール、文書等を自らの専門分野において情報収集や情報発信に活用できる。	2	
			現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、そこから主要な原因を見出そうと努力し、解決行動の提案をしようとしている。	2	
			現状と目標を把握し、その乖離の中に課題を見つけ、課題の因果関係や優先度を理解し、発見した課題について主要な原因を見出し、論理的に解決策を立案し、具体的な実行策を絞り込むことができる。	2	
			事象の本質を要約・整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。	3	
			複雑な事象の本質を整理し、構造化（誰が見てもわかりやすく）できる。結論の推定をするために、必要な条件を加え、要約・整理した内容から多様な観点を示し、自分の意見や手順を論理的に展開できる。	3	
	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	身内の中で、周囲の状況を改善すべく、自身の能力を発揮できる。	3	
			集団の中で、自身の能力を発揮して、組織の勢いを向上できる。	3	
			日常生活の時間管理、健康管理、金銭管理などができる。常に良い状態を維持するための努力を怠らない。	3	
			ストレスやプレッシャーに対し、自分自身をよく知り、解決を試みる行動をとることができる。日常生活の管理ができるとともに、目標達成のために対処することができる。	3	
			学生であっても社会全体を構成している一員としての意識を持って、行動することができる。	3	
			市民として社会の一員であることを理解し、社会に大きなマイナス影響を及ぼす行為を戒める。人間性・教養、モラルなど、社会的・地球的観点から物事を考えることができる。	3	
			チームワークの必要性・ルール・マナーを理解し、自分の感情の抑制、コントロールをし、他者の意見を尊重し、適切なコミュニケーションを持つとともに、当事者意識を持ち協調して共同作業・研究をすすめることができる。	3	
			組織やチームの目標や役割を理解し、他者の意見を尊重しながら、適切なコミュニケーションを持つとともに、成果をあげるために役割を超えた行動をとるなど、柔軟性を持った行動をとることができる。	3	
			法令を理解し遵守する。基本的人権について理解し、他者のおかれている状況を理解することができる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識している。	2	
			法令を理解し遵守する。研究などで使用する、他者のおかれている状況を理解できる。自分が関係している技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解し、技術者が社会に負っている責任を認識し、身近で起こる関連した情報や見解の収集に努めるなど、技術の成果が社会に受け入れられるよう行動できる。	2	
			未来の多くの可能性から技術の発展と持続的社会の在り方を理解し、自らのキャリアを考えることができる。	2	
			技術の発展と持続的社会の在り方に関する知識を有し、未来社会を考察することができるとともに、技術の創造や自らのキャリアをデザインすることが考慮できる。	2	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	0	0	0	0	0	100	100
基礎的能力	0	0	0	0	0	50	50

專門的能力	0	0	0	0	0	25	25
分野横断的能力	0	0	0	0	0	25	25